

被災後の生活支援の課題と ソーシャルワーク実践

— 社会福祉協議会のソーシャルワーカーの取り組み

Reconstruction of victim's life after disaster and
social work practice:

Focusing social workers who work
at local social welfare councils

浦和大学 大島隆代

Takayo Oshima, Urawa University, Japan

本報告の内容

1. 東日本大震災での被災状況
2. 災害前後のフェーズを枠組みとした住民の生活課題の整理
3. 被災者の生活を地域を基盤として支えるソーシャルワークの取り組み
ー石巻市社会福祉協議会における
地域福祉コーディネーターの実践事例
4. 地域福祉コーディネーターによる実践の今後の課題

2011年3月11日 東日本大震災発生



2011年3月11日 東日本大震災発生



2011年3月11日 東日本大震災発生

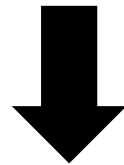
- 死者 15,887人、負傷者 6,150人、
行方不明者 2,612人(2014年7月10日 現在)
- 広範囲におよぶ被害による地域の産業基盤
の崩壊(個人の生活再建と地域の復興が密接
に関係している)
- 福島県では、原子力発電所の事故が原因と
なり、被災者の遠隔地避難が長期化

災害前後のフェーズと必要な支援

災害前	救出避難	避難所生活	仮設住宅	自宅再建
<p>行政・社協等のソーシャルワーカーによる地区社協・自主防災組織等の育成、住民への啓発、学習・訓練等の支援</p>	<p>警察・消防・自衛隊等による避難誘導・救出</p> <p>医師・看護師等による緊急医療支援</p>	<p>警察による地域案線確保</p> <p>自衛隊による生活支援・復旧</p> <p>医師・看護師・保健師等による健康管理・増進</p>	<p>保健師等による訪問健康管理・増進</p>	<p>ソーシャルワーカーによるコーディネート</p>
<p>行政・社協・事業所等のソーシャルワーカーによる要援護者情報の把握・共有</p>	<p>心理職等による被災者の心のケア</p> <p>介護職による被災要介護者の支援、被災施設の応援派遣</p>	<p>災害ボランティア・NPO(復旧支援)</p>	<p>災害ボランティア・NPO(生活支援)</p>	<p>ソーシャルワーカーによるコーディネート</p>
<p>施設等のソーシャルワーカーによる防災減災対策・訓練、地域住民との連携</p>	<p>民生児童委員等と連携した要援護者救出・安否確認</p>	<p>民生児童委員やボランティアとの連携による被災者ニーズ把握、生活支援、他専門職への橋渡し・連携</p>	<p>経済的支援、復職・就労支援、</p>	<p>新たなコミュニティづくり、孤立防止</p>
<p>連携の呼びかけ</p>	<p>ボランティアコーディネート</p>	<p>福祉避難所として被災要援護者受入</p>	<p>都市計画、建築、法律など様々な専門職</p>	
<p>行政による防災計画、防災インフラ整備・備蓄、関係機関団体連携、住民啓発・防災組織化支援など</p>	<p>行政による各段階の復旧、復興、生活支援、都市再生など全般的対応、統括</p>			

避難所退去後からの生活課題

- ・震災以前に生活の基盤を築いていた地域のさまざまなファクターのバランスが崩れてしまっている。
- ・仮設住宅など仮住まいでの生活が長期化することにより、生活の不安からアルコール依存に陥るなど、家族間または地域住民の間におけるコンフリクトの問題が顕著になる。



被災した地域の市町村の社会福祉協議会を中心にして、被災者個々人の生活課題を支援しながら、さらに、地域で住民同士が支え合っていられるしくみつくるといった、メゾレベルにおけるソーシャルワークの必要性

被災者の生活を地域を基盤として支える 石巻市での取り組み

(石巻市:人口約15万人、被災者約3万人)

- 地域福祉コーディネーターを社会福祉協議会に配置した。(市内を10地域に分けて担当)
- 被災者を個別に訪問してニーズキャッチする役割を持つ「見守り専門員」と協力して、個人の課題を地域全体で支援することを考えていく。
- 住民のリーダーを中心にしたコミュニティオーガニゼーションを行う。
- NPOなどの支援団体とのネットワークを作る。

被災者の生活を地域を基盤として支える ソーシャルワーカーの視点

- 被災した後のフェーズにより、生活課題も変容したり、また、課題が複雑していくという構造を理解する。
- 被災者個々人の自己決定を尊重する。
- 既存の法律制度では対応できない、例えば「社会的孤立」などの問題をアウトリーチしてすくい上げる。
- 課題のある人にも「強さ(ストレングス)」があるという視点で臨む。
- 支援のための既存の資源がない場合は、住民と一緒に対応策を考える。
- 地域全体のレジリエンスを高めていく。

地域福祉コーディネーターの実践事例

- ・仮設住宅での個別訪問を続けている「見守り支援員」から、地域福祉コーディネーターに寄せられた情報があった。津波で家族と職場を失い仮設住宅にひとりで住んでいるある男性が、アルコールを過剰に摂取しており、また、周囲の人とも交流がないということだった。同じ時期に、近隣の住民からは、「男性の住宅の前にお酒の空き瓶がたくさん捨てられており、迷惑している」というクレームも寄せられた。
- ・地域福祉コーディネーターは、保健師の協力を得て、地域の全ての住民が自由に参加できる「健康問題を考えるための勉強会」を開いた。また、その男性を、地域住民が集まるサロンに誘って、地域の人たちとのつながりを作るようにした。同時に、医療ソーシャルワーカーと連携して、男性にアプローチしていき、病院を受診するよう促した。

地域福祉コーディネーターの課題

【アドミニストレーションの課題】

- ・復興のための基金から人件費が出ており、時限的な雇用のため、今後の実践の方向性がつかみにくい。
- ・実践モデルがないため、専門的な支援スキルを高めるためのスーパービジョンの体制が整備途上である。

【今後の被災者および被災地での課題】

- ・自宅再建ができる人とできない人との間にコンフリクトがあり、対応が難しい。
- ・震災から三年が経過して、仮設住宅から退去していく被災者が増えていき、コミュニティの状態が変わってしまい、支援の方法が一般化しにくい。
- ・被災地の産業の立て直しや雇用創出がなされていないと、コミュニティ自体が成り立たなくなってしまう懸念がある。

石巻市のあの時と今

2011年3月



復興への歩み 現在の石巻市の様子



世界中の皆さまからの温かい支援に
感謝し、被災地では日々
復興に向けて歩んでいます。

謝謝

Thank you

ご清聴ありがとうございました